

空き家再生と教育のマッチングで 小豆島を魅力的にする 『空き家コンペティション』

空き家問題はいまや日本全国の問題です。小豆島も同じです。小豆島には行政の「空き家の賃貸紹介」もありますが、住みにくい家も多くあります。そう、リノベーションが必要なのです。でも、リノベーションをするお金はどこにもありません。そこで考えたのが「空き家コンペティション」です。小豆島の近隣に存在するいくつかの大学に卒業研究の材料として「空き家」を貸し出します。そして学生たちは空き家を題材に、自由にリノベーションをします。これを繰り返すことで小豆島に魅力的な空き家が増え、そしてそれが観光資源になります。



プロジェクトメンバー

芝浦工業大学デザイン工学部 2年
芝浦工業大学デザイン工学部 3年
芝浦工業大学デザイン工学部 2年
芝浦工業大学デザイン工学部 2年
香川大学創造工学部 1年

安西 竜晟
小林 玲奈
倉持 太陽
齋藤 圭佑
中井 菜月

ポイント 小豆島だからこそできる仕組み

「空き家再生を学生の手任せに委ねる」アイデアそのものは、さほど新しいものではないかもしれません。でも、小豆島には瀬戸内国際芸術祭という「島をまるごと使う」文化が既に存在しています。瀬戸内国際芸術祭では多くの観光客が島のいたるところを回ります。この土壌があるか

からこそ「空き家コンペティション」が成立するのです。
空き家コンペティションでリノベーションされた家は住居ではなく宿泊地として利用します。もちろん、気に入れば住居として購入・賃貸することも可能です。
学生には「実践的な教育機会」

を、小豆島には「新たな観光資源」を、というWin-Winの関係がこの提案のポイントです。
この事業が何年も続けば、いずれ「あの巨匠が学生時代に建てた作品」とやらも出てくるかもしれません。その時、小豆島の魅力は何倍にもなることでしょう。



空き家コンペティションの記録を残す
オリーブの木に最優秀の受賞者の名前を記録して植えていく

感想 実際に現地に赴いてこそ分かること

小豆島に行く前の島のイメージとしては、水の制限や商品が少ないなど不自由が多いと思っていました。小豆島は大きい島というのがありますが、実際に行ってみて不自由なく生活することが出来ました。しかし、島には島の問題があり、今回のプロジェクトでは人の流出を止め、

人口の増加につなげられるようなサービスやプロダクトを考えることが今回の目的でした。私たちの班では現在問題になっている空き家の増加に注目し、コンペを行い、学業の一環として建築学部の学生などに空き家を新しく改築してもらって格安で販売するというサービスを考

えました。今回のプロジェクトを通じて、自分が経験したことのない環境についてデザインする能力を身に着けることが出来ました。今回身につけた経験を活かし、今後も様々なプロジェクトに参加したいです。
(齋藤 圭佑)